

少子高齢化社会が急速に到来する。成熟化が進むモノの消費は、人口の減少とともに高齢者が増える中でどうなるのか。小売業だけでなく、外食産業にとっても大きな課題だ。関係者に

MJ 論壇

は先々の生活者動態がみえる「未来スクリーン」が欲しいところである。

日本の総人口の年齢三分区を見ると、一九八五年には〇歳から十四歳の年少人口は二一・五%、十五歳から六十四歳の生産年齢人口

2035年のマーケティング

「高齢都市」熱海で学ぶ

は六八・二%、六十五歳以上の老年人口は一〇・三%だった。しかし、二〇〇八年は年少人口が三・三%、生産年齢人口は六四・五%、老年人口は二一・一%。子供の比率は四割減となり、高齢者は二倍以上に増えた。さらに三五年の予測で

ト「マックスバリユ熱海」ここでしっかりと顧客満足度を上げ、同時に中心顧客である高齢者層の消費分析をこうして品ぞろえを充実させ、ロスを少なくした店舗運営を行っている。マックスバリユの近くにある清水町商店街。熱海の

さな店ながら鮮度の高い地場の魚を中心に野菜や総菜、グロッサリーも扱う市民市場である。同店をみるのコース料理というリーズナブルさが人気だ。高齢化先進都市でにぎわっているシーンからは、①お届けサービス②地産の適量品③絆(きずな)づくり

は年少人口九・五%、生産年齢人口五六・〇%、老年人口三三・七%。少子高齢化先進都市である。

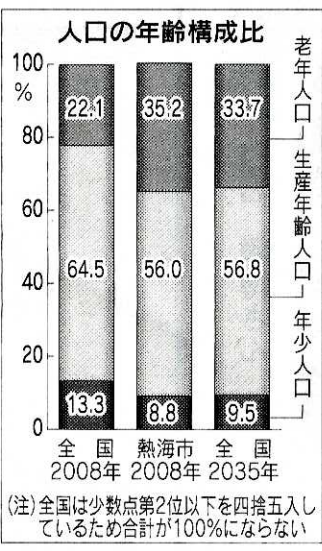
割引がある火・水曜日住宅からスタートした地元の小鮮魚店「中島水産」だ。小

三月、商店街の入り口に小粋なドッグカフェが開店した。熱海では高齢の単身者や夫婦が多い。そのため家族の一員としてペットを飼う家が多く、中でも育てやすい小形犬が目立つという。四十年代のオーナーは愛犬同好者が集うスペースを



商い創造研究所社長 松本 大地氏

最近この街で、いくつかのシーンから次世代の生活者の動向を垣間見た。地元のスーパーマーケット



そのほか、地元高級旅館で腕を振るった板長が独立開業した会席料理店は穴窯がある陶芸ギャラリーとの複合店舗。山の上からの景色という「ごちそう」もあ

松本 大地(まつもと だいち) 52年(昭27)生まれ。鈴屋などを経て、88年丹青社入社。商業施設の企画・開発などを担当。07年4月商い創造研究所を設立、代表取締役社長に就任。欧米の商業開発動向にも詳しい。